地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2019
4月
No.59

兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

［診療科紹介］

脳神経内科／形成外科・小児形成外科

音声分析装置

［AGMC委員会・部会めぐり］

医療事故防止対策委員会

「安全な医療環境の構築をめざして」

- ぶらり～っと病院探訪
- セミナーのご案内
- スタッフのつぶやき

脳神経内科

脳卒中などの急性期治療から神経難病の診断治療まで脳・神経系疾患に幅広く対応します

神経内科は2019年4月から「脳神経内科」と名称が変わりました。脳卒中や頭痛、てんかん、認知症など、普段よくみられる脳・神経系の病気を内科的に診断し、治療する診療科です。同じ病気を外科的に対応する「脳神経外科」とは対極の仲間関係にあります。脳・脊髄・末梢神経・筋肉における、成人の急性の病気から慢性の病気まで幅広く対応しています。

脳神経内科　科長

影山 恭史

- 日本神経学会代議員・専門医・指導医
- 日本脳卒中学会専門医
- 日本リハビリテーション医学会認定臨床医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本認知症学会専門医
- 日本てんかん学会評議員

◀歩行を補助するリハビリロボットスーツ「HAL®」

提供する診療内容

脳神経内科は❶脳神経外科と協力して急性期脳卒中の治療、❷院内併設の兵庫県難病相談センターと連携しパーキンソン病など神経難病の診断・治療や就労・療養の援助、❸救急外来で非常に多いけいれんの治療、一般外来でてんかんの診断と治療、❹もの忘れの鑑別診断、❺その他（髄膜炎、脳炎・脳症やギラン・バレ症候群など）を主体に、急性期病院の枠組みの中で診療して参ります。入院治療後、必要となれば長期のリハビリテーションや療養を近隣の対応病院に転院の上、継続して頂きます。

脳神経内科スタッフとローテーション中の研修医の先生方

院内デイ・サービスルーム「ときの間」活動風景

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

脳卒中診療は特に脳梗塞において血栓溶解療法や血栓回収など急性期治療が進歩しました。それでも時間との闘いです。意識障害、言語障害、顔のゆがみ、半身の手足の麻痺などに気がつけば直ちに来院をお願いします。

形成外科
・
小児形成外科

『口唇裂・口蓋裂センター』を開設しました

当院は「小児・周産期母子医療センター」を擁する小児の専門病院でもあります。形成外科のあつかう疾患の中でも体表面の先天異常は重要な位置を占めます。当院の小児形成外科では口唇裂・口蓋裂を治療の中心にすえ、小児科、新生児内科、小児救急集中治療科、リハビリテーション科(言語聴覚士)、口蓋裂を専門とする近隣の矯正歯科医院と連携、生下時から成人に至るまで一貫した治療方針で診療にあたっています。

左から:矯 正 歯 科:山本　卓(山本歯科医院 矯正歯科クリニック 院長)
形 成 外 科:山脇 吉朗(当院 形成外科長・小児形成外科長)
言語聴覚士:鷲見 麻里(当院 リハビリテーション部)

口唇裂・口蓋裂センター／構成メンバー

■院内構成メンバー

形成外科長(小児形成外科長 兼任):山脇 吉朗
リハビリテーション部(言語聴覚士):鷲見 麻里
山本歯科医院 矯正歯科クリニック 院長(矯正歯科):山本　卓

■院外との連携

●さわだクリニック院長　澤田 正樹
〒657-0051 神戸市灘区八幡町2-8-7 セントビル3F
●山本歯科医院 矯正歯科クリニック　理事長 山本 一郎
〒662-0811 西宮市仁川町2-3-8

提供する診療内容(当院HPもご参照ください)

口唇裂・口蓋裂の治療は、ことばやかみ合わせなどの「機能の改善」と口唇や鼻の「形態の改善」のふたつが求められます。当センターでは『唇・顎・口蓋裂外来』を設け、形成外科医・矯正歯科医・言語聴覚士の三者が一緒に、時間をかけて、患者さん・ご家族のお話を聞きながら診察し、病態の説明と治療方針の相談をおこなっています。また、本外来では口蓋裂だけでなく、「ことばに問題をかかえた患者さん」に対しても、電子内視鏡や顔面規格レントゲン撮影、音声分析装置などを用いて「ことば」の検査・評価をおこない、その患者さんにあった治療をすすめています。なお、口唇や鼻の形を整える手術もふくめて、これらはすべて保険診療の範疇です。

形成外科・
小児形成外科 科長　**山脇 吉朗**

●京都大学 医学博士　●京都大学 臨床教授
●日本形成外科学会認定 形成外科専門医・同指導医
●日本形成外科学会認定 小児形成外科分野指導医
●日本形成外科学会 口唇・顎・口蓋裂診療ガイドライン作成委員

診察風景
「内視鏡画像を供覧しながら
病状の説明をしているところ」

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

口唇裂・口蓋裂の患者さんの最初の手術は生後3〜4か月ごろの口唇形成術です。しかし、歯槽(歯ぐき)の変形や外鼻変形の矯正、授乳の際の舌の動きの正常化、などを目的として、生後できるだけ早い時期に「術前顎矯正(ホッツ床やPNAM:Pre-operative Naso-Alveolar Modeling)の装着」を開始したいと考えています。出生前診断がついた時点で、あるいは出生後早いうちに、ご紹介・受診していただけると幸いです。

AGMC 尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center

委員会・部会めぐり

ー豊かな医療を育むための協議ー

適切な運営および安全な医療提供を行うために、
多職種で運営されている院内委員会・部会です。

医療事故防止対策委員会

医療事故防止対策委員会委員長
（消化器外科 科長）
田村　淳

安全な医療環境の構築をめざして

委員会の紹介・特徴

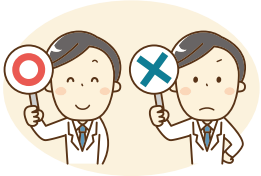
当委員会は病院幹部によって構成される医療安全分野での最高の方針決定機関です。

医療に関わるリスクは医療活動のあらゆる局面に存在します。当委員会の目的は、院内での医療行為・医療環境に潜むリスクを察知して未然に事故を防止すること、発生した医療事故については正確な情報収集と評価をおこない原因究明と防止対策を立案することです。

《構成メンバー》

病院長、管理局長、副院長４名（医療安全担当・精神医療担当・手術担当・看護部長）、以下診療部より6名（医療安全部長・診療部長・救命救急センター長・集中治療センター長・小児科部長兼周産期医療センター長兼小児救命救急センター長・産婦人科部長）、薬剤部長、総務部長、業務支援課長、医療安全課長の16名で構成されています。

医療事故防止対策委員会　メンバー



活動内容

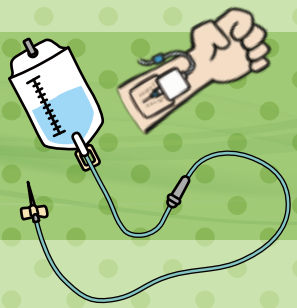
委員会は月に1回、幹部会のあとに開催されます。医療安全部より当月に報告されたインシデント・アクシデント報告を説明し、重要な報告について事例を検討します。問題点を抽出し、原因究明・防止対策の立案を行ないます。事例によっては、当委員会でインシデント・アクシデントレベルの決定（1−5）、事故調査委員会の立ち上げを検討します。

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

当委員会の存在が院外の方の目にとまることは余り無いと思われますが、医療の質を担保し、患者さんが当院で安心して受療して頂けるように、裏方として活動しています。

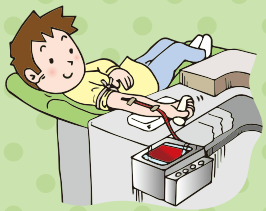
ぶらり～っと 病院探訪

中央点滴・処置室



2階外来エリア中央南側にある「中央点滴・処置室」を取材してきました。6人から8人の看護スタッフを擁し、多い時で1日約90人もの患者さんに対応されているそうです。点滴・注射はもちろん、外来患者さんの輸血や手術前の自己血輸血用採血、注射を伴う負荷試験が行われています。特色としては、通常は入院で行われるような心不全点滴治療や神経内科の特殊点滴治療にも取り組まれているところです。多くの患者さんに接し、多種多様な治療・処置を実施する中で、「心がけておられることは？」と尋ねると、やはり第1は「安全」との答えが返ってきました。入院患者さんのように担当看護師が決まっているわけではなく、時間も限られる中でも、個々の患者さんの情報をしっかり得て、安心して医療行為を受けてもらえるように様々な確認が重ねられています。第2には患者さんが「リラックスして、落ち着いて治療・各処置が受けてもらえるように心がけている」とのことでした。

私もスタッフの皆さんの素敵な笑顔に癒されて取材から帰って来ました。



セミナーのご案内

第22回 生活習慣病セミナー

多くの方のご参加を！

テーマ 『～脂質異常について～』

【講　師】県立尼崎総合医療センター
●糖尿病内分泌内科医長　原田 貴成
●管理栄養士　川除 明日香

【日　時】2019年5月21日（火曜日）午後2時～4時

【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂（1階）

参加費：無料（予約不要）

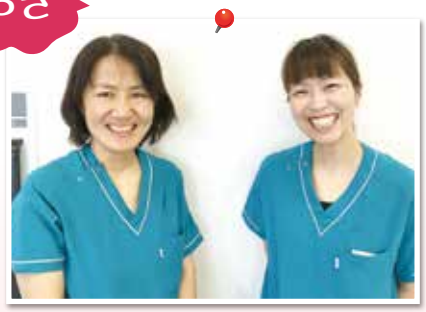
脂質異常症
最大の原因は
「日常生活」にあります

動物性脂肪
甘いもの
果物の
食べ過ぎ

アルコールの
飲み過ぎ

★お問い合わせ：外来Bブロック（糖尿病・内分泌内科）看護部　☎ 06-6480-7000（代表）

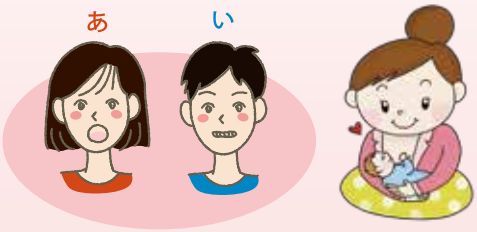
スタッフのつぶやき



楽しく、時に厳しく！？

口唇裂・口蓋裂センター　言語聴覚士

口唇裂・口蓋裂をご存知ですか？口の中や顔面が他の人とは異なった形で生まれてくる病気です。異なった形であることにより、ことばの問題や耳・鼻の病気、歯並びの問題など、さまざまな問題が生じることがあります。私たちは、口唇裂・口蓋裂センターのメンバーとして、0歳から成人する頃まで、長期間に渡って、口唇裂・口蓋裂の患者さんに関わらせていただいています。私たちの行う言語訓練では、お乳がちゃんと飲めているかな？から始まり、ことばの発達や発音のチェック、訓練を行います。治療は長期間に渡るため、治療を受けている子ども達、保護者の方が楽しく言語訓練に取り組めるよう心がけています。言語訓練を受けている方、次も笑顔で待ってますね！



医療機関のみなさまへ

地域医療連携センターからのお知らせ

FAXの誤送信にご注意ください！

当院にファックスを送られる際に誤った別のファックス番号に送信されてご迷惑をおかけしているケースがあります。
ご多忙中大変申し訳ございませんが、ファックスを送信される際には、ファックス番号のダブルチェック等、送信作業には慎重を期していただき、くれぐれもお間違いのないようお願いします。

今月の表紙写真

音声分析装置

この機械は、音響分析装置です。この装置は、私たちが話していることば（音声）を、耳からではなく、目で見えるようにしたものです。音声にはさまざまな音の成分が含まれており、それを数値やグラフといった客観的な形で表すことが出来ます。それにより、耳で聞いた印象だけで治療効果を判定するのではなく、客観的に治療効果を判定することができます。

編集後記

2019年度はどんな年になるのでしょうか。そういえば、1月に出場したマラソン大会。練習不足で当日を迎え、完走できるか自信がありませんでした。スタートの合図を待っていると、先にみごと5㎞を28分で完走した97歳の男性が壇上で励ましてくれました。健康である事はもちろん、タイムが速い！と感動し元気をもらい、おかげで完走することが出来ました。今年度は「人の心を支える」そんな医療を目指したいと思っています。　（N.M.）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/

兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社